

## 2. 私たちの住むまちの素晴らしさ

### 2-1. 六甲山地の豊かな自然の恵み<sup>めぐ</sup>

六甲山地は、豊かな自然に恵まれた緑の森で、四季を通して、私たちを楽しませてくれます。しかし、江戸時代の末期には白い岩はだばかりがみえ、荒れ果てた山だったといわれています。現在の緑あふれる六甲山地は、明治以降、人々の手によって木々が1本1本植えられ、100年以上の歳月<sup>さいげつ</sup>によって再生されたものです。今、私たちの目に映る山なみは、かけがえのない財産です。

木々の種類や生き物も非常に豊富であり、古くから六甲山地は登山や散策<sup>さんさく</sup>の場として市民に利用されてきました。こうした山を散策<sup>さんさく</sup>すると、四季折々の植物などが楽しめます。



## 2-1-1. 六甲山地の緑



縄文時代の六甲山地の植物は、シイ、カシなどの照葉樹林（つやつやした厚い葉を持つ樹木）でした。

六甲山地は緑豊かな山でしたが、社寺林以外は、薪を得たり草を刈ったりして、自分たちの力ではもともにもどれないほど、樹木が切り出されました。明治初期には地表が見えてしまうほどになりました。もともと崩れやすい性質を持つ六甲山地は、風雨にさらされ荒れ果ててしまったのです。

その後、明治35年（1902年）から始まった緑をとりもどすための工事によって、六甲山地は植物の宝庫となりました。

山田川地域周辺では、普通に見られる植物として、カラシナ、アシなどがあります。特徴的な植物としては、ヘラノキがあげられます。また、藍那にある長坂山は植物の宝庫で、マタビ、タラヨウ、ヤマコウバシ、ムラサキシキブなどの植物を見ることができます。

これらの植物は、たいへん貴重なので採取はしないでください。



六甲山地の緑の歴史



### 六甲山地は昔、草木のない山だったって知ってた？

緑豊かな六甲山地は、人口が増えるにしたがって、多くの薪や草が切り出され、草木のない山になりました。その後、明治35年（1902年）から緑をとりもどすための活動が始まり、ヤシャブシ類、ニセアカシア、マツ類、スギ、ヒノキ、クヌギ、カシ類などを中心とした植樹を進め、現在のように緑を回復させています。



森林植物園では約1,200種類もの樹木を見ることができるんだよ！

神戸市立森林植物園は市街地から近い六甲山地の一角に位置し、単なる見本園ではなく、自然を最大限に活用した、生きた植物本来の姿を見ることができる、総面積142.6ha（甲子園球場約37個分）の広大な樹木の植物園です。

園内には、約1,200種（うち約500種は外国産）の樹木を中心に、北アメリカ産樹林区、ヨーロッパ産樹林区、アジア産樹林区、日本産樹林区（北日本区・照葉樹林区・日本針葉樹林区）といった原産地別に、自然生態を生かした樹林として植栽展示しています。



メタセコイア（森林展示館前）



コバニツバツジ



ツクシシャクナゲ



ハンカチノキ



アサザ



スイショウ



六甲の名花「幻の花」シチダンカって知ってる？

シチダンカは「幻の花」「幻のアジサイ」といわれています。その理由は、シーボルトが江戸時代にヨーロッパで「日本植物誌」にて紹介して以来、だれもその実物を見たことがなかったからです。しかし、昭和34年（1959年）に六甲ケーブル山頂駅から下った所で再発見されました。それは、シーボルトが紹介して以来、約130年ぶりのことでした。

シチダンカは、森林植物園のあじさい園に植栽されていて、6月中旬～下旬にかけて見ごろを迎えます。



シチダンカ

（本頁の写真：神戸市立森林植物園）





















私たちのまちに残る貴重な植物を調べてみよう！  
注）とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！



私たちのまちの中では、どんな植物が見られるのかな？

山田川周辺では、様々な植物を見ることができます。

























山田川周辺で一般的に見られる植物

春	写真の他、ネコヤナギ、タガラシ、ヘビイチゴ など		
			
	カラスノエンドウ	ハナウド	オオイヌフグリ
			
	オオバコ	ホトケノザ	ヤエムグラ
	夏	写真の他、ヨシ、フジ、クズ など	
			
ツクサ		ドクダミ	センニンソウ
			
マンテマ		カラスウリ	ヒルガオ
秋		写真の他、メドハギ、ヨウジタデ、ススキ、ヨモギ など	
			
	ヒガンバナ	シロヨメナ	ミゾソバ
			
	チカラシバ	イヌタデ	イタドリ

(写真 : 「山田の里の野草花図鑑」山田の里グリーンクラブ)

六甲山地、<sup>たいしゃく</sup>帝釈山地では、市街地では見られない植物を見ることができます。

六甲山地・帝釈山地で一般的に見られる植物

春	写真の他、サルトリイバラ、ショウジョウバカマ など				
					
	ヘビイチゴ	タムシバ	ヤマザクラ	カンサイタンポポ	
					
	コバノミツバツツジ	コブシ	タチツボスミレ	ホタルカズラ	
	夏	写真の他、コウゾリナ、カセンソウ、キイチゴ など			
					
		ササユリ	ダイコンソウ	ホタルブクロ	オトギリソウ
					
ウツボグサ		ベニドウダン	キキョウソウ	ウド	
秋		写真の他、ノアズキ、ヨモギ など			
					
		ススキ	ワレモコウ	ツリガネニンジン	ポタンツル
					
	リンドウ	アキノタムラソウ	シラヤマギク	イナカギク	

(写真 : 「山田の里の野草花図鑑」山田の里グリーンクラブ)

山田川地域でよく見られる植物に以下のようなものがあります。

### タニウツギ

北海道の西側、本州の東北地方、北陸地方、山陰地方さんいんに分布し、日本海型気候の山地の谷沿いや斜面しゃめんに多く見られる落葉低木らくようていぼくで、田植えの時期に花が咲くので「田植え花」としても知られています。



タニウツギ

### コアジサイ

本州の関東地方以西、四国、九州に分布し、明るい林内や林縁りんえんなどに自生する落葉低木です。開花時期は6～7月ごろです。



コアジサイ

### アリマウマノスズクサ

花の形がたいへん変わっていて、花びらがなく、花の付け根が長く角笛つのぼえのようで、その内側にはビロード状の短い毛がたくさん生えています。アリマウマノスズクサは、この内側がこい紫色むらさきで、他のウマノスズクサとは異なっています。また、葉は「ミッキーマウス」のような特徴的な形とくちょうてきをしています。



アリマウマノスズクサ



いろいろな場所で見られる、様々な植物を観察してみよう！  
注) とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！

山田川周辺の六甲山地で見られる樹木<sup>じゅもく</sup>

**エゾエノキ**

ニレ科エノキ属の<sup>らくようこうぼく</sup>落葉高木

樹高：最大約20m

開花：4～5月ごろ



**ヘラノキ**

シナノキ科シナノキ属の落葉高木

樹高：10～15m

開花：6～7月ごろ



**イロハモミジ**

カエデ科カエデ属  
の落葉高木

樹高：10-15m

開花：4～5月ごろ



**クヌギ**

ブナ科コナラ属  
の落葉高木

樹高：15-20m

開花：4～5月ごろ



**どんぐりっていろいろな種類があるんだよ！**

どんぐりとは、クヌギ・カシ・ナラ・カシワなどの果実の総称です。どんぐりは全てブナ科の果実です。六甲山地にもこれらの樹木がたくさん生えています。



クヌギのどんぐりと葉



コナラのどんぐりと葉



アラカシのどんぐりと葉



マテバシイのどんぐりと葉

その他六甲山地で見られる木の実



マタタビ



クリ



アキグミ



ノグルミ

他にも、六甲山地ではたくさんの木の実を観察することができます。

(出典：「山田の里の木の葉図鑑」山田の里グリーンクラブ)



**どんぐりからも<sup>しぶぞめ</sup>渋染が作れるんだよ！**

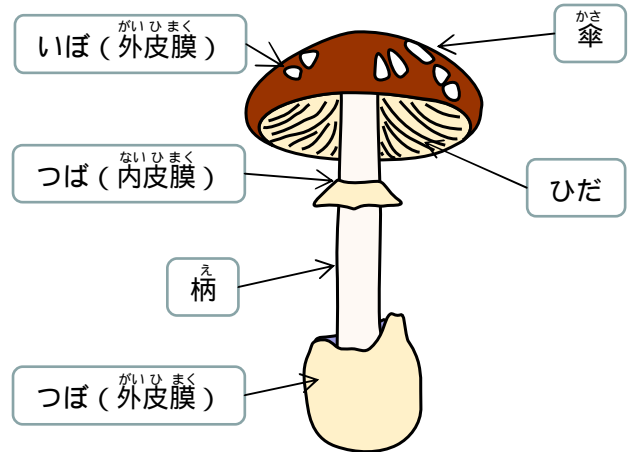
一般的には柿渋<sup>いっばん</sup>を用いて染めるのが「渋染」ですが、どんぐりを原料として渋染を作ることができます。

山田川周辺の六甲山地で見られるキノコ

(出典:「山田の里のキノコ図鑑」山田の里グリーンクラブ)

キノコは、カビやコウボと同じ<sup>きんるい</sup>菌類と呼ばれる仲間です。キノコは、普段は細かい糸状の「菌糸」という状態で土の中や腐った木の中などで生活しています。菌糸の状態ではめったに人の目に見えません。雨が降ったりして適当な温度になると、子孫を残すために菌糸が集まりキノコとして現れ、<sup>ぼうし</sup>胞子を飛ばします。

各部の名前



ヒラタケ



ナラタケモドキ



クリタケ



エノキタケ



ツルタケ



アカヤマドリ

この他にも、ヤグラタケ、クヌギタケ、マツオウジ、ヒメカバイロタケ、テングタケ、フクロツルタケ、シロオニタケなど様々なキノコが見られます。

**(注意)** 毒をもった似ているキノコもたくさんあります！絶対に食べないようにしましょう。



## 2-1-2. 六甲山地から山田川周辺の生き物たち



六甲から山田川周辺にはどんな生き物がいるのかな？

六甲山地、<sup>たいしゃく</sup>帝釈山地から山田川周辺にかけて、いろいろな生き物を見ることができます。

### 山田川周辺で一般的に見られる生き物

鳥	写真の他、セグロセキレイ、オシドリ、カイツブリ など			
	コサギ	カワセミ	ツバメ	アオゲラ
昆虫	写真の他、ジャコウアゲハ、ギンヤンマ、コオロギ など			
	コオニヤンマ	アオスジアゲハ	アブラゼミ	アメンボ
	(写真 : 神戸市の蝶・お気に入りの蝶)			
魚など	写真の他、メダカ、フナ、カワヨシノボリ など			
	アユ	ドンコ	サワガニ	
	ウシガエル	オイカワ	イモリ	

六甲山地・<sup>たいしやく</sup>帝釈山地で  
一般的に見られる生き物

鳥・けものなど

写真の他、キジバト、オオルリ、ウグイス、タヌキ など



エナガ



ヒヨドリ



イノシシ



モズ

昆虫

写真の他、アシナガバチ、マツムシ、モンシロチョウ、ミヤマクワガタ など



アサギマダラ



モンキアゲハ



キアゲハ



トノサマバッタ

(写真：神戸市の蝶・お気に入りの蝶)

魚など

写真の他、サワガニ、カジカガエル など



モリアオガエル



カワムツ



ニホンヤモリ

私たちのまちには、まだまだ多くの自然が残っており、様々な植物や生き物が見られます。しかし近年は、国外から来た帰化植物が多くなったり、池などでは外来種の魚が放流され、昔から住んでいた生き物の数が減るなど、<sup>せいいたいけい</sup>生態系が変わってきています。

山田川地域でよく見られる生き物に以下のようなものがあります。

### チョウ

山田川地域では、様々なチョウが見られます。

また、但馬<sup>たじま</sup>や西播磨<sup>にしはりま</sup>の山地でしか見ることのできないものや、シジミチョウの仲間を見ることがもできます。



ジャコウアゲハ



スミナガシ



ウラキンシジミ

(写真：神戸市の蝶・お気に入りの蝶)

### ゲンジボタル

本州、四国、九州と周囲の島に分布し、水がきれいな川に<sup>せいそく</sup>生息しています。



ゲンジボタル

### キベリハムシ

ハムシ科の昆虫で日本では兵庫県のみが確実な産地となっています。食草としてマツブサ科のサネカズラが知られています。サネカズラは、六甲山地の北側の各地、特に山田川上流部に多く生えています。



キベリハムシ



私たちのまちや山の自然を守っていくためには、どうしたらいいの？  
家族や友だちと<sup>いっしょ</sup>一緒に考えてみよう！



## ゲンジボタルの生態って知ってる？

ゲンジボタルの一生をサイクルでみると次の4つに分けることができます。

### 飛翔（空中を飛ぶこと）

6月上旬～7月上旬ごろまでが飛翔期間で、発光部を光らせて幻想的に飛び回ります。

### 産卵

水際の湿った苔の中や、草の茎や葉の裏に多くの卵を何回にも分けて産み付けます。

### 水中生活

卵は1ヶ月程でふ化します。ふ化した幼虫はすぐ水面に落ちていき、水中での生活を始めます。幼虫の体長は1～1.5mmくらいで、好きなエサはカワニナです。

### 陸上生活

幼虫は6～7回の脱皮を繰り返し、雨か、雨上がりの夜、暗くなると一斉に上陸を始めます。上陸しておよそ1ヶ月でサナギになり、それから約10日間で成虫になります。

### ゲンジボタルの光りのしくみ

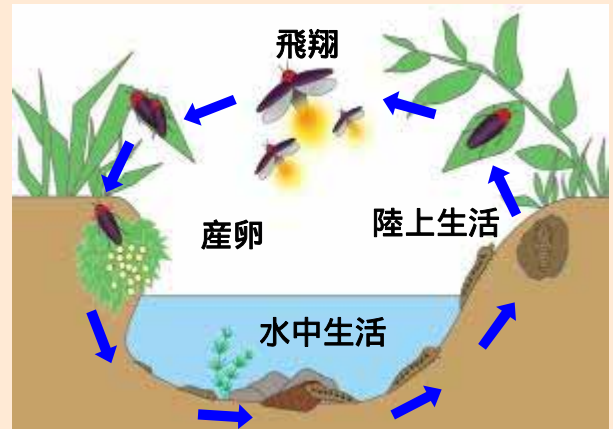
ゲンジボタルが黄緑色に光る秘密は、オスは2節、メスは1節ある発光器にあります。この発光器には、光る細胞の層があり、その中でルシフェラーゼという酵素のはたらきで、ルシフェリンというものと酸素が結びついて光るといしくみになっています。

### カワニナについて

幼虫1匹に対して、成虫になるまでに25～30匹ものカワニナが必要です。カワニナは、春の彼岸から秋の彼岸まで、水温が20以上になると、光と酸素、水質次第で毎日多くの子貝を産み続けます。

### オスとメスの違い

ゲンジボタルのメスは、オスと比較すると、からだが大きく、1.8cmほどで、羽の付け根の左右を手でつまんだ時にからだがかた硬く感じます。



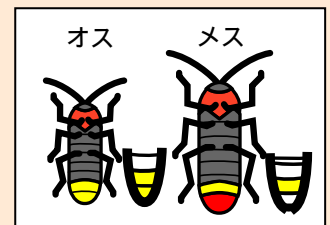
ゲンジボタルの一生のサイクル



ゲンジボタルの幼虫



カワニナ



オスとメスの比較



山田川では、ゲンジボタルの鑑賞会をやってるよ！ 参加してみよう！

### 2-1-3. 田畑に潤いをもたらす山田川



私たちの生活に、水は欠かすことができません。私たちのまちは、古くから六甲山地を源流とする山田川の水の恵みを受けています。



水不足で苦労していた東播地方の田畑に、淡河川疎水・山田川疎水によって水を供給していたんだよ！

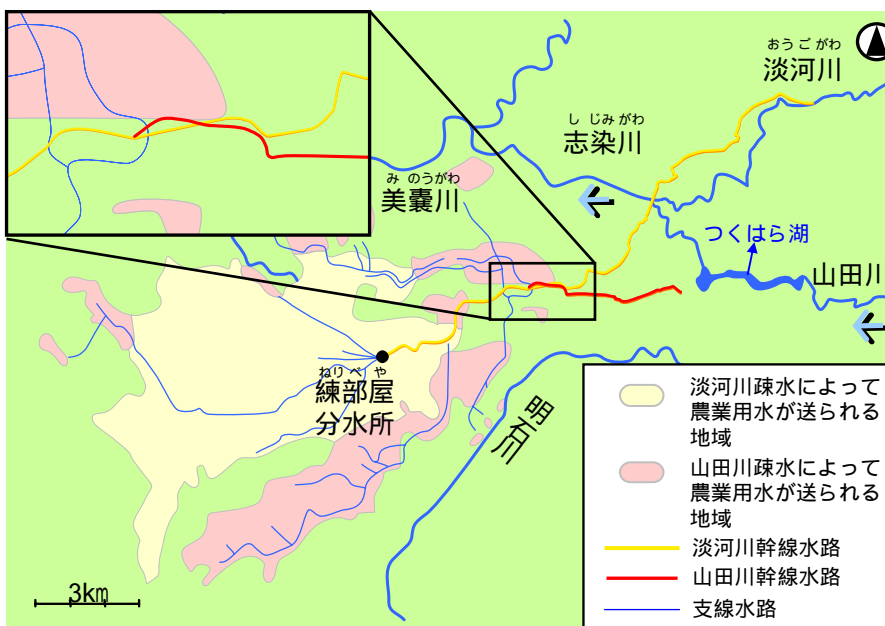
現在の西区岩岡町・神出町の辺りは、美しい水田が広がり、農業の盛んな地域です。しかし、かつては、水不足に苦しむ村でした。江戸時代につくられた村でしたが、台地の上にあり、近くに大きな川もなく、雨の少ないこともあって、毎年のように夏の日照りの時には作物は大きな被害を受け、村人は大変苦労していました。

1771年山田川から水を引く計画が持ち上がりました。しかし、工事にたくさんのお金がかかることなどから実施されるには至りませんでした。

そこで、明治21年（1888年）淡河川から水を引くこととなり、明治27年（1894年）、淡河川疎水が完成しました。しかし、淡河川疎水が完成しても水不足は解消されませんでした。

そのため、再び山田川から水を引くことが計画され、明治44年（1911年）2月に山田川疎水の起工式が行なわれ、大正8年（1919年）山田川疎水が完成しました。

淡河川疎水・山田川疎水には、サイフォン（水をより高い場所を通して目的地に送る管）や頭首工（川の水を取り込むための施設）など当時の先端技術が導入されました。山田川疎水の頭首工は、平成3年（1991年）に取りこわされてしまいましたが、今もこの淡河川疎水・山田川疎水の水路は活用され、人々の役に立っています。



山田川疎水の延長図



取りこわし前の山田川頭首工



疎水の最終点練部屋分水所



## どんど 呑吐ダムによってつくはら湖に沈んでしまったんだよ！

つくはら湖は現在の神戸市北区山田町衝原から三木市志染町にまたがる湖で、呑吐ダムの貯水池です。

呑吐ダムは、国営「東播用水農業水利事業」の一環として平成4年度（1992年度）に完成しました。

大きな川が近くになく、雨も少ない東播地方の農業用水は、昔から多数のため池にたよってきました。また、早くから淡河川疎水・山田川疎水などの整備も行われてきました。このようにこの地方は昔から大変な努力をし、水田に水を供給してきたのです。

戦後、まちの発展とともに、東播・北神戸の農業の形も大きく変わり始め、農業用水の安定した確保を求める声が高まり、昭和45年度（1970年度）に呑吐ダムの工事が始まり、平成4年度（1992年度）にダムが完成し、水の供給が開始されました。

しかし、呑吐ダムのダム湖となる場所には衝原村があり、衝原村には先祖代々より多くの人々が住み、生活していました。また、衝原村には「潜龍洞」や「呑吐の滝」など、自然のよい風景が見られる場所や溪流も数多くありました。そんな衝原村が湖の底に沈んでしまうということで、住民は何度も相談を繰り返し、ついに村を離れる決断をしました。そして、神社や寺院と共に、33戸のうち17戸の世帯が湖岸の高台に移転することを決め、他の家は新しい住宅地へと離れていきました。そして、昭和53年（1978年）7月2日、「新しい衝原」の開解村式が行われました。



呑吐ダム



つくはら湖のサイクリングロード



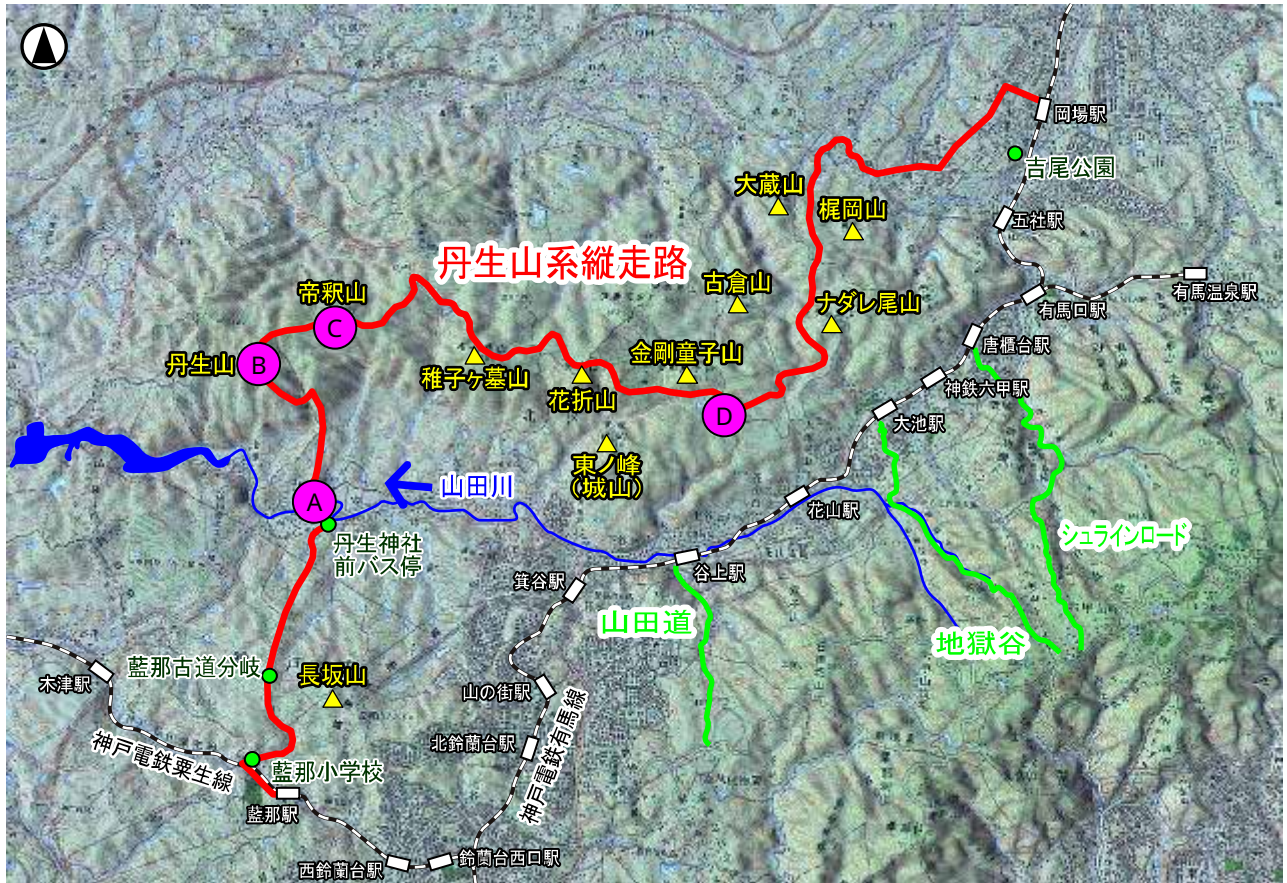
つくはら湖のサイクリングロードを自転車で走ってみよう！

## 2-1-4. 市民に親しまれている自然散策コース



マップ 2 3 7 23 1 3

山田川地域は、回りを山々で囲まれ、それらを巡る多くの散策コースがあります。六甲山地の散策コースとしては、山田道、地獄谷、シュラインロードなどがあります。帝釈山地の散策コースとしては、丹生山系縦走路、帝釈鉦山道などがあります。



主な自然散策コース図

(カシミール3Dにより作成)

### 丹生山系縦走路の主なポイント



① 丹生宝庫



② 丹生神社



③ 帝釈山山頂



④ 鱷ノ手池



森林植物園には、たくさんの散策スポットがあり、日本では見られない世界の森が見られるよ！

森林植物園内には、様々な散策スポットがあり、日本や世界の森をめぐり、季節を楽しむことができます。

園内の中心にある「長谷池」では、四季を通じて美しい景色が見られるほか、水辺にラクウショウという木の珍しい根っこ（気根）なども見られます。

また、神戸市との姉妹・友好都市の関係を記念して、それぞれの国における原産の樹木にシンボルとなる建物を添えて演出したシアトル、天津、ブリスベーン、リガ各都市の「国際親善の森」や、アジア区・北アメリカ区・ヨーロッパ区などでは、それぞれの地域の植物を樹林で見ることができます。

園内散策スポットの主なポイント



長谷池



ブリスベーンの森



天津の森



シアトルの森



森林植物園の園内マップ

(写真: 神戸市立森林植物園)



自然散策する時には、注意しなくちゃいけないことがあるんだよ！

- 火を使わない！
- 動物にえさをやらない！
- ゴミは持ち帰る！
- とっていいのは写真だけ、採取しないで観察しましょう！
- マムシ、ヤマカガシ、スズメバチなどに会ったら要注意！

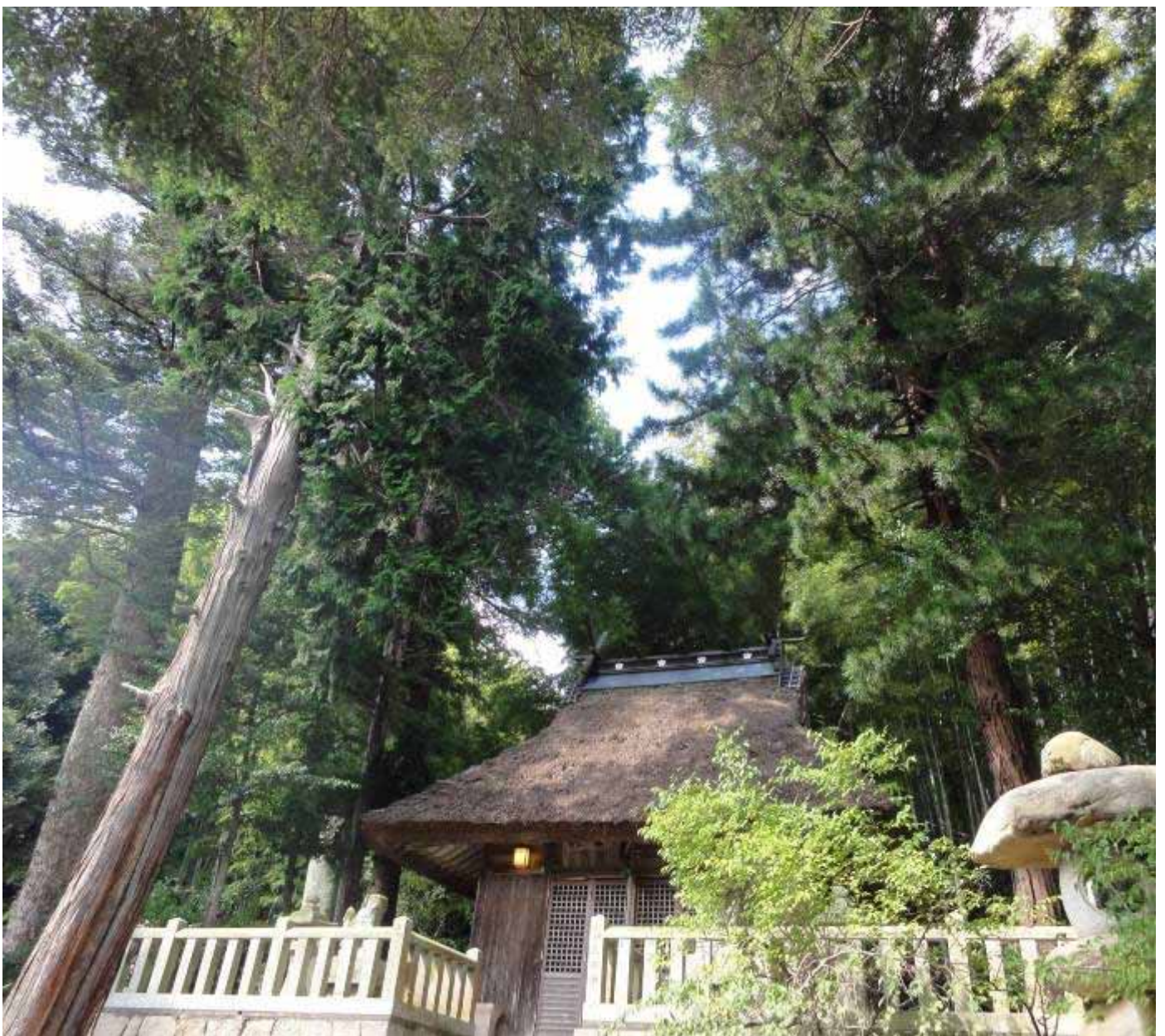


自然散策コースを歩いてみよう！



## 2-2. 私たちのまちの暮らしの歴史

山田川の流れる私たちのまちは、六甲山地の山々に囲まれた谷間のまちであり、山田川上流部は宅地開発が進み、大型店舗の出店が相次いでいます。古くは、西国街道の北側別ルートとして栄え、人や文化の行き来が頻繁にありました。今も農村歌舞伎舞台をはじめ、多くの古い建物や伝説が残っています。また、六甲山地の山々や山田川の水の恵みを受けて、酒米や菊の栽培、炭作りなどの産業も発展していました。まちのあらゆる場所にすばらしい自然があり、歴史のあかしをたくさん見ることができます。



天満神社(山田町上谷上)

## 2-2-1. 山田の産業



山田川は昔から水量が豊富で山田川地域の人々に潤いをもたらせてきました。

そのような環境にある山田川地域では、農業が主要な産業として営まれてきています。特に、酒米の栽培が盛んです。

また、明治期に山田川地域にもちこまれ、その後の山田川地域の特産物となった菊の栽培でも有名です。



### 酒米の品種である「山田穂」は山田が発祥という説もあるんだよ！

私たちの住むまちで盛んに生産されていた酒米といわれるのは、酒造好適米のことであり、「山田錦」は、その代表品種です。「山田錦」は、大正12年（1923年）に兵庫県立農事試験場で「山田穂」を母に「短稈渡船」を父にして交配され、その中から優秀な苗を育て、昭和11年（1936年）、親の山田穂と錦のようないい米という意味で命名されたものです。

「山田錦」の母にあたる「山田穂」の名前の由来には、いくつかの説がありますが、その一つに、藍那の東田勘兵衛が摂津の雌垣村(現・茨木市目垣)から品質の良い稲の種子を手に入れ試作したところ、好評価を受け、近郊の村々に広まりました。そして、この村々では山田村藍那の名を取って、「山田穂」や「藍那穂」と呼んだという説もあります。



小学校での稲刈り体験の様子  
(神戸市立山田小学校)



### 山田の菊は全国でも高く評価されているんだよ！

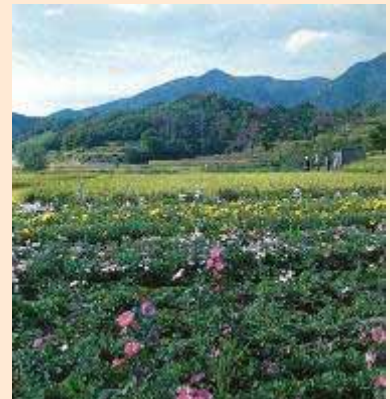
明治40年（1907年）ごろ、西田広一が宇治川の花問屋「花常」から菊の苗を持ち帰り、自宅の庭に植えたのが、山田の菊づくりの始まりであるとされています。

それを農業用の作物として栽培を始めたのが東田岩次郎で、やがて東下地区に菊づくりが広がっていきました。

大正時代から、生け花などの需要が増え、昭和初期には二輪菊が栽培の中心となりました。また、全国のコンクールでも賞を取るなど山田の菊は、品質の良い菊として有名になりました。



山田の菊  
(写真:神戸市)



菊の栽培の様子  
(写真:「山田郷土誌」)



### 昔は六甲山地に広がる木々を伐採して炭を作り生活していたんだよ！

私たちの住むまちは、山々に囲まれているため、多くの薪炭を都市に供給していました。炭焼きは、明治・大正・昭和と発達していき、昭和初期には最盛期を迎えました。

原木には、カシ・クヌギ・ナラなどの広葉樹種の生木を使っていました。炭を焼く人の多くは労働者として外からやってきた人たちでした。また、原木となる木を切りだす時は、木の根株を残して木を切ります。そうすることで、萌芽更新といって、残した根株から眠っていた芽が新たに出てきて、生長を始め、数年後には木はもとの姿にもどり、森林が保たれるのです。

炭焼きは、11月ごろから翌年の3月下旬までの農閑期が主で、明治時代には農閑期の生活を支える重要な副業であったとされています。



### 今も当時の炭窯跡が見られるよ！

炭焼きは、昭和30年代（1955年ごろ）以降、プロパンガスや灯油などの普及によってその姿を消しました。しかし、山田川地域では今も当時使っていたと思われる炭窯の跡を見ることができます。

また、独自に炭焼窯を作り、炭焼き体験を行っている小学校などもあり、当時の生活、文化を今も受け継いでいます。



炭ヶ谷にある炭窯跡



小学校での炭焼きの様子  
(神戸市立君影小学校)



炭ヶ谷には炭窯の跡があるよ。見に行ってみよう！

## 2-2-2. 湯山街道と呼ばれた山田の道



マップ 5 6 7

山田川地域には、昔から西国街道（山陽道）の北側別ルートとして、多くの人や文化が入ってきていました。この道は有馬温泉のある有馬（湯山）へ通じる道であったことから湯乃山街道または湯山街道と呼ばれていました。

また、南北を通る道としては、有馬街道ものびていました。



山田を通る湯山街道



有馬街道は神戸の南北の重要な連絡道路なんだよ！

有馬街道は、現在も山田川地域で最も交通量の多い幹線道路ですが、もともと天王谷越と呼ばれる、行き来には危険な狭い道路でした。明治5年（1872年）に県道となつてからは、道路の幅を拡げたり直したりを繰り返してきました。



谷上駅周辺の有馬街道の様子

また、山田川地域には今ほど交通網が発達していなかった時代に昔の人々が利用していた古道が数多くあります。

藍那古道と呼ばれる、神戸市北区山田町坂本と神戸市北区藍那を結ぶ道は、現在は、丹生山系縦走路の一部となっており、ハイキングルートとしても知られています。同じハイキングルートして六甲山地の北側にのびている山田道も、昔は六甲山地の北と南を結び、文化や物資を運ぶ重要な道としての役割を果たしてきました。



藍那古道

その他、義経道と呼ばれる山道もあり、この道は源平の戦いのころ、源義経が一の谷の平家本陣を背後から奇襲攻撃を仕掛けるために、家来を率いてひそかに鶴越えへと急いだ道であると伝えられています。

また、金剛童子山の東側にある黒甲越も代表的な山越えの道でした。



山田道



有馬街道を歩いて私たちのまちを散策してみよう！

## 2-2-3. 伝統・文化のまち



私たちの住むまちは、山田川に架かる「幸座橋」が鳥羽上皇が休憩したといういい伝えが残るなど、古くは、貴族などの莊園として朝廷との関わりもあったとされています。江戸時代に入ってから幕府の直轄領として、重要な地域となっていました。

このような背景から私たちの住むまちには、多くの人や文化の行き来があり、今に伝えられています。



私たちの住むまちには昔14棟もの農村歌舞伎舞台があったんだよ！

私たちの住むまちの伝統や文化を語る上で重要なものの1つに、農村歌舞伎があります。農村歌舞伎とは、地芝居、村芝居とも呼ばれ、江戸～明治時代に農民によって行われていた素人歌舞伎です。山田川地域にはかつて14棟もの農村歌舞伎舞台があり、今も9棟（建て直しを含む）が現存しています。

江戸時代の農村は、祭りの時以外は、朝早くから日が暮れるまで仕事にはげんでいたと思われます。そのような状況の中で京（京都）、大坂（大阪）などから地方へと歌舞伎や浄瑠璃などの娯楽が広まっていきました。幕府からは、たびたび禁止のおふれが出されていましたが、すたれることはなく、農民は観て楽しむだけにとどまらず、自分たちで演じるようになり、舞台まで造ってしまったのです。このようなことから、当時の農民の農村歌舞伎への情熱が伝わってきます。



かみたにがみ  
上谷上農村歌舞伎舞台

天満神社境内にあり、入母屋造、茅葺屋根となっています。建てられたのは江戸時代末期で、舞台は割拝殿形式です。

割拝殿形式：中央に通路がある拝殿。この舞台では、舞台下手寄りのところが切れて参道になっている。

【兵庫県指定の重要有形民俗文化財】



しもたにがみ  
下谷上農村歌舞伎舞台

天彦根神社境内にあり、一重入母屋造、茅葺屋根となっています。建物は、1842年に建て直されたもので、昭和54年（1979年）に修復されています。皿回し式回し舞台や二十台の吊り上げなど様々な装置が備わっています。【国指定の重要有形民俗文化財】

その他、現存する農村歌舞伎舞台として以下の舞台があります。

<p>おうご 小河農村歌舞伎舞台</p>	<p>あいな 藍那八王子宮 農村歌舞伎舞台</p>	<p>しんかどう 藍那釈迦堂 農村歌舞伎舞台</p>
		
<p>あまつひこね 天津彦根 農村歌舞伎舞台</p>	<p>やさか 八坂農村歌舞伎舞台</p>	<p>おうぶ 小部農村歌舞伎舞台</p>
		



農村歌舞伎は今も各地で行われているんだよ！

私たちの住むまちでは、今も「神戸すずらん歌舞伎」や「箱登羅たから歌舞伎」などの活動が行われていて、農村歌舞伎の伝統を受け継いでいます。

また、神戸市北区役所では山田町の下谷上・上谷上・藍那・小河の現存の舞台を交替で活用し、毎年上演会や歌舞伎体験教室などを開いています。



白波五人男



上谷上農村歌舞伎の様子



小河農村歌舞伎の様子



下谷上農村歌舞伎の様子

(写真：神戸市)



農村歌舞伎を見に行ってみよう！

さらに、私たちの住むまちの伝統・文化で忘れてはいけないこととして、「山田文楽」があります。

「山田文楽」は、山田村原野（神戸市北区山田町原野）の櫛田駒吉によって始められました。櫛田駒吉の生まれた山田村は、元来、農村歌舞伎の盛んな土地であり、早くから農村歌舞伎に興味を持っていました。

ある年、櫛田駒吉が母親の手伝いで四国の阿波（徳島・淡路）へ渡った際に、見物した「文楽」に強く興味を持ちました。

その後、大坂豊能郡（大阪府豊能郡）の竹本文楽に弟子入りし、腕を磨いた結果、師匠の竹本文楽の名を継ぐまでになりました。

同じく原野出身の古川玉次郎とともに、一座を組み、明治24年（1891年）「山田文楽」を始めました。山田文楽は各地で評判を呼び、二代目の櫛田菅治に受け継がれました。戦後、世界一周観光船カロナ号が神戸港に戦後初の観光船として入港した際、歓迎の席で演じられた「山田文楽」は見事な出来栄で、国際親善に大きな役割を果たしました。

その後は、後継者がなく、昭和37年（1962年）の公演を最後に、「山田文楽」は姿を消してしまいました。



山田文楽の様子



### 文楽とは、どんな芝居なの？

「文楽」とは、古くから伝えられていた人形芝居に、物語りの浄瑠璃と曲が結びついた「人形浄瑠璃芝居」のことです。16世紀末に京（京都）で始まり、17世紀の元禄時代、大坂（大阪）で、竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品により、人形浄瑠璃は大人気となり全盛期を迎え、竹本座が創設されました。この後豊竹座をはじめいくつかの人形浄瑠璃座が出てきました。

一方、地方でも、大坂の義太夫節とは違った曲目による人形浄瑠璃芝居が盛んに演じられていました。その中でも、「淡路人形浄瑠璃」は有名で、元禄時代のころには、大坂や京都の人形浄瑠璃芝居と並んで盛んに演じられていました。

幕末のころになると、淡路の植村文楽軒が大坂（大阪）で始めた一座が最も有力で中心的な存在となり、明治の末には、人形浄瑠璃芝居を専門に興業する劇場が文楽座だけであったため、その後、人形浄瑠璃芝居のことを文楽と呼ぶようになりました。









### 文楽について調べてみよう！

## 2-2-4. まちの歴史を語る様々な「あかし」



私たちのまちには、まちの歴史を物語る「あかし」が、数多くあるんだよ！

あなたの知っている場所に を付けてみよう。

遺跡 寺社など	① みょうようじあと 明要寺跡	② たんじょうじんじゃ 丹生神社	③ ろくじょうはちまんじんじゃ 六條八幡神社
			
チェック			
遺跡 寺社など	④ むどうじ 無動寺	⑤ にやくおうじんじゃ 若王子神社	⑥ ふくでんじ 福田寺
			
チェック			
遺跡 寺社など	⑦ じょうどうじ ごりんとう 成道寺(五輪塔)	⑧ しちしゃじんじゃ 七社神社	⑨ じゅふくじ 寿福寺
			
チェック			

こうしたまちの「遺跡・寺社など」が残っているのには、当時の人々の「願い」や「いわれ」などが背景にあり、後の時代に伝えようとした思いがあります。

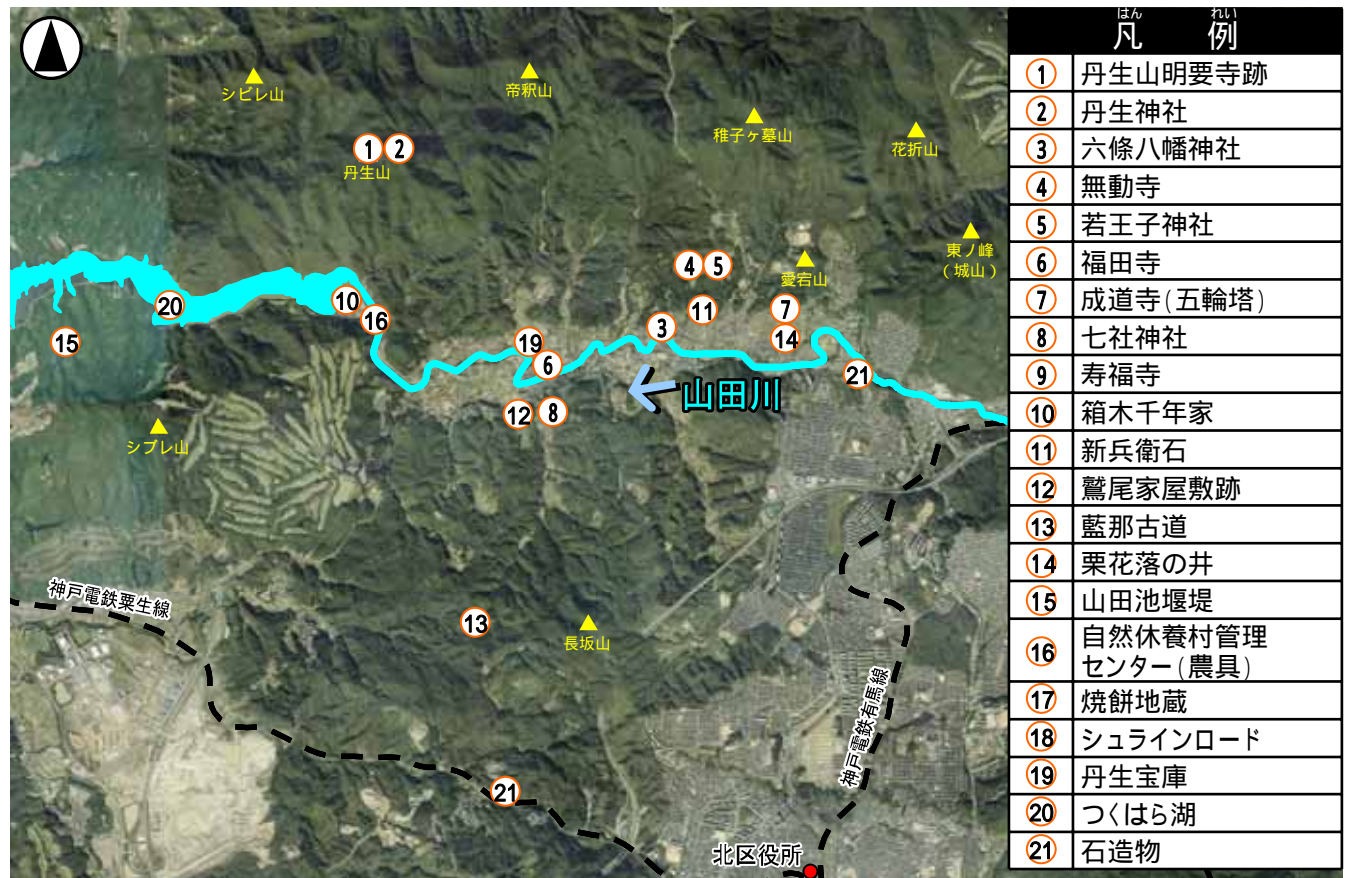
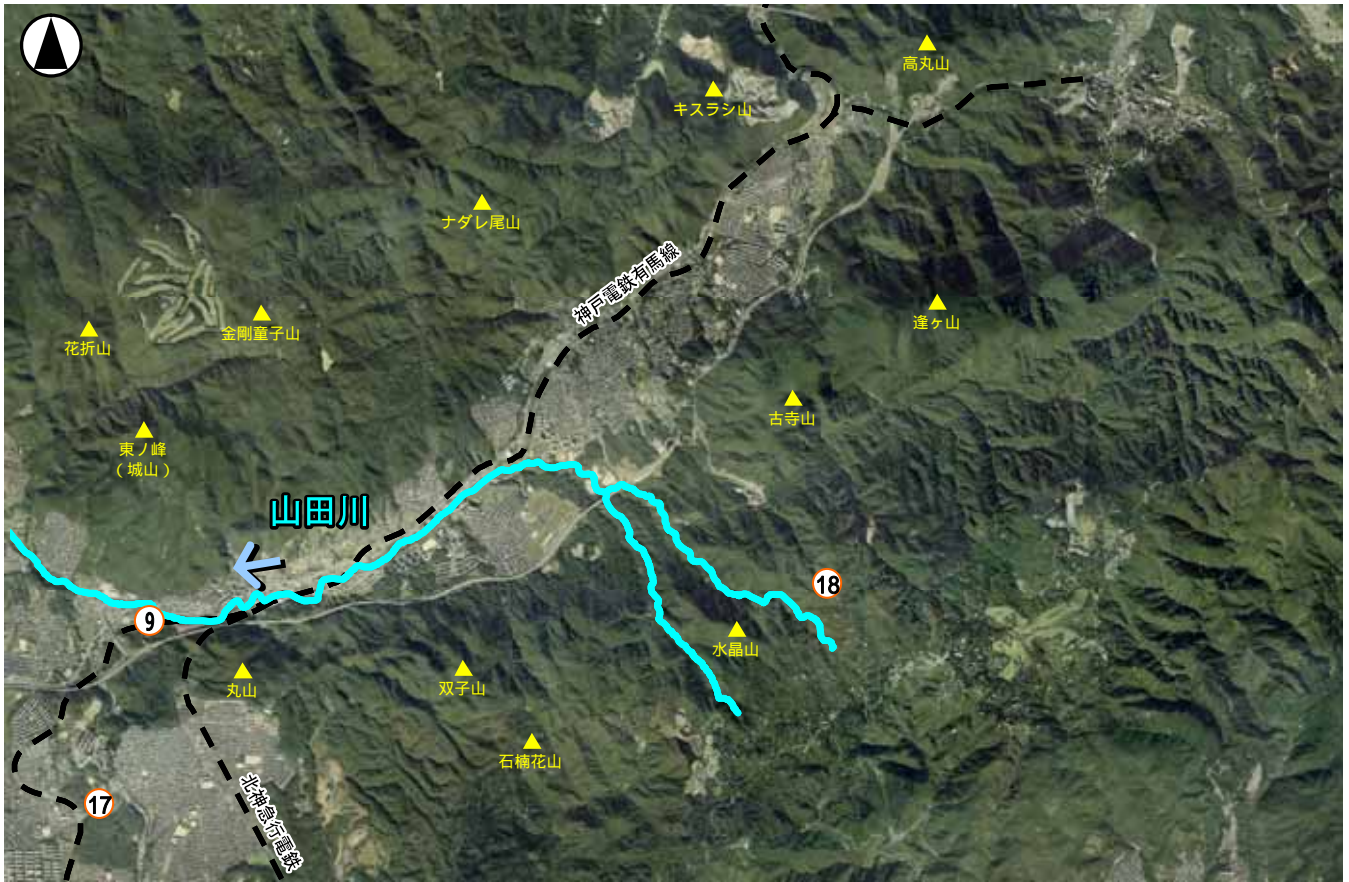


歴史を物語るあかし	<p>10 はこぎせんねんや 箱木千年家</p> 	<p>11 しんべえいし 新兵衛石</p> 	<p>12 わしおけやしきあと 鷺尾家屋敷跡</p> 
	チェック		
歴史を物語るあかし	<p>13 あいなこどうよじつねどう 藍那古道(義経道)</p> 	<p>14 つゆい 栗花落の井</p> 	<p>15 やまだいけ 山田池</p> 
	チェック		
歴史を物語るあかし	<p>16 しぜんきゅうようそんかんり 自然休養村管理センター(農具)</p> 	<p>17 やきもちじぞう 焼餅地蔵</p> 	<p>18 シュラインロード</p> 
	チェック		
歴史を物語るあかし	<p>19 たんしょうぼうこ 丹生宝庫</p> 	<p>20 つくはら湖</p> 	<p>21 石造物</p> 
	チェック		



知らない歴史の「あかし」は、家族と一緒に歩いて確かめてみよう！

主な「あかし」位置図



はん れい	
凡	例
①	丹生山明要寺跡
②	丹生神社
③	六條八幡神社
④	無動寺
⑤	若王子神社
⑥	福田寺
⑦	成道寺(五輪塔)
⑧	七社神社
⑨	寿福寺
⑩	箱木千年家
⑪	新兵衛石
⑫	鷲尾家屋敷跡
⑬	藍那古道
⑭	栗花落の井
⑮	山田池堰堤
⑯	自然休養村管理センター(農具)
⑰	焼餅地蔵
⑱	シュラインロード
⑲	丹生宝庫
⑳	つくはら湖
㉑	石造物



私たちのまちは古代から文化の栄えた場所だったんだよ！

### 丹生山明要寺跡・丹生神社

昔、百濟（昔の朝鮮半島にあった国）の王子だった恵という人が、丹生山に明要寺を開いたとされています。それまでは丹生山では、「丹生氏」の氏神であった「丹生都比売命」を祀っていました。平安時代末期には、平清盛が都を福原に移すと、明要寺を京都の比叡山延暦寺に見立て、月詣でに訪れていたといわれています。また、清盛は明要寺の総鎮守として日吉山王権現を祀りました。戦国時代になり、豊臣秀吉の三木城攻めに際し、秀吉と敵対していた別所氏の支援をしたため、全山焼き打ちに合ってしまった。焼き打ちの後、明要寺は再興されましたが、明治元年（1868年）、神仏分離令により廃寺（廃止された仏教寺院）となり、日吉山王社は今の丹生神社となりました。

### 六條八幡神社

六條八幡神社は、山田の総鎮守社です。995年基灯法師により若宮八幡として建てられました。山田村郷土誌によると、六條判官と呼ばれていた源為義（源頼朝の祖父）が山田庄（今の神戸市北区山田町）の領主となり、左女牛八幡宮を、京都から山田庄に移して若宮八幡といっしょにお祀りしたことから、六條八幡神社と呼ばれるようになったそうです。



七社神社本殿

### 七社神社

七社神社は、国津神（地方豪族の守護神や土地の神）の代表である大国主命（七社明神）を祀った摂津国山田郷の総鎮守社でした。もとは、丹生山に祀られていましたが、明要寺を建てた時、仏教を嫌った「七社明神」は、丹生山を離れ、宮床（山田町西下）へ戻られました。その後、神のお告げがあり、今の雫の杜へ移されたといわれています。



丹生山絵図

（出典：「山田郷土誌」）



六條八幡神社本殿



三重塔

### 無動寺・若王子神社

無動寺は、聖徳太子が物部氏を討つための戦勝祈願として鞍作鳥に大日如来像を作らせ、勝利した後、丹生山のふもとのこの地に安置したことが起源とされています。この時、寺の鎮守社として八幡宮を建てました。これが今の若王子神社となりました。

無動寺には、大日如来像の他、釈迦如来像、阿彌陀如来像、不動明王像、十一面観音像があり、この五体はすべて国の重要文化財に指定されています。

### 福田寺

福田寺の創建は951年浄恵玉大和尚によるものとされています。

室町時代までは、鷲尾家の私寺として営なまれていましたが、江戸時代に入り、一般村民の位牌を納めることもできるようになりました。

### 成道寺

成道寺には、廃寺となった安養寺と福昌寺の仏像や遺品が集められています。

また、巨大な五輪塔や宝篋印塔などすぐれた石造物も豊富です。

### 寿福寺

寿福寺は、神戸電鉄箕谷駅と谷上駅の間辺りにあり、743年に行基によって開かれた寺だとされています。明要寺と同じく豊臣秀吉により焼き打ちに合い、江戸時代以前の記録がほとんど残っていません。しかし、薬師如来像や聖観音立像など優れた仏像が残されています。



無動寺本堂



福田寺



成道寺



寿福寺



私たちのまちには、多くの史跡や伝説があるんだよ！

### 箱木千年家

神戸市北区山田町衝原にある、室町時代前半に建てられたとされる、現在に残っている民家としては日本最古の建物です。

呑吐ダム建設の時、ダム湖の底に沈む位置に建てていたため、移築されました。この時の調査で千年家は、室町時代に建てられた「庄屋」と、江戸時代中期に建てられた「はなれ」を江戸時代末期に継ぎ足したものであることがわかりました。

そこで、移築の時には、「庄屋」と「はなれ」を昔のように分かれた形で移築しました。



庄屋



農具など



シュラインロードには37体もの石仏があるんだよ！

### シュラインロード

シュラインロードという名は当時神戸に居留していた外国人ハイカーたちによって付けられたもので、別名「唐櫃道」や「行者道」とも呼ばれています。六甲山上の前ヶ辻から唐櫃の間の古道で、多くの石仏が並び、また、行者堂があることに由来しています。

1825年、野盗におそわれたり、事故で犠牲になった人への供養もかねて道中無事、商売繁盛を願って石仏が建てられたそうです。

その後、西国三十三ヶ所にならい三十三体の石仏が安置されました。今では、善光寺、大日如来など4体の番外を含めて37体の石仏を見ることができます。



役の行者



九体仏



シュラインロードのマップ



栗花落の井

### 栗花落の井

奈良時代、矢田部郡（今の山田町）の山田左衛門尉真勝が郡司として朝廷に仕えていた時、右大臣・藤原豊成の娘・白滝姫に恋をしました。結婚を許された真勝は白滝姫を連れて山田に帰りました。真勝の献身に白滝姫の恋心も深まり始め、ようやく幸福な生活をしたのも束の間、白滝姫は山田に来て3年という早さで亡くなりました。真勝は弁財天の堂を建

て白滝姫を祀るとともに、そばに観音堂を建て如意輪観音を祀りました。また、弁財天の堂の前に池を掘ったところ、毎年、栗の花が落ちる梅雨のころになると清水が湧き出るので、白滝姫をしのんで真勝は姓を「栗花落」と改め、その池を「栗花落の井」と名付けました。

### 鷲尾党

源平の戦いの「一の谷の戦い」の時、不慣れな土地で困っていた源義経軍を見事に道案内したという「鷲尾三郎」伝説が残っています。

鷲尾三郎は、惣領家を中心とする鷲尾一族の一人で、鷲尾一族は、結束して武士団を構成し、現在の北区、須磨区、垂水区、西区一帯に勢力を持っていたとされています。

### 焼餅地蔵

昔、1つの土橋が架けられていましたが、橋を支えていた石積みが緩み、今にも崩れそうになっているのを、村人たちは誰も気付きませんでした。

そんな時村人の夢に地蔵が現れ、橋を修理するように告げたのでした。何人もの村人の夢に現れたので、村人は橋を修理することにしました。その時初めて村人たちは、すんでの所で大事になるところであったことを知りました。しかも、石積みの中から舟型の石が出てきて、それが夢に現れた地蔵とそっくりでした。村人はその石を早々に祀り、正月のころであったので、餅を焼いて供えました。

以来、お参りをして、お願い事をすれば、願いの1つは必ずかなえられるとされています。また、8月23日、24日に地蔵盆があり、近所の子どもたちも参加しています。



鷲尾家屋敷跡



焼餅地蔵

## 新兵衛石

江戸時代の初め、当時丹生山田の福地村など4つの村を支配していた古河藩主の土井大炊頭が、領内見回りのため、福地村に立ち寄った時、庄屋の息子で、村上新兵衛という少年が、たび重なる不作続きで苦しんでいた村人を助けるために、年貢を軽くするように、大炊頭へ直接訴え出たのでした。このようなことは当時では、決して許されないことでしたが、新兵衛の訴えは筋が通り、しかも15歳という若さであったため、大炊頭は、新兵衛の覚悟を決めた訴えを聞き入れることにしました。また、罪を問うこともしませんでした。村人は新兵衛の勇気を称え、訴え出たところにあった大きな石を、「新兵衛石」と名付け、感謝と喜びの記念として村の一角に残しました。



新兵衛石



### 当時の農民の苦勞を語ったいい伝えは他にもあるよ！

「新兵衛石」物語の他にも、「脇坂市左衛門」物語といういい伝えも残っています。江戸時代、幕府や藩では、財政を豊かにするために年貢を増やそうと、領内の田畑を測量する「検地」を行っていました。年貢を増やすことが目的ですので、農民にとっては、それはきびしく苛酷なものでした。

庄屋の脇坂市左衛門は、なんとか「検地」を緩やかにしてもらおうと、お役人に何度もお願いをしましたが、なかなかお役人には取り上げてもらえませんでした。

検地ができないようにするしか方法はないと考えた市左衛門は、検地に使う竿を全部折ってしまいました。

市左衛門は、お役人の仕事を妨げたのですから、その罪は許されるものではありませんでした。しかし、市左衛門はお役人の取り調べを逃れ、農作業用の鎌で切腹して果てました。

これを聞いた検地奉行の青山大膳亮は、市左衛門にたいへん感心して、その後の「検地」をいくらか緩やかにするよう命じたのでした。

尼崎藩領内の人々は、身をもってお奉行様を動かした脇坂市左衛門を「義民」と称えました。また、今までにない善政を行った青山大膳亮に対しても、報恩碑を建てたり、「大膳祭り」を行ったりして称えました。



### 私たちのまちに残るいい伝えを調べてみよう！

## 2-3. 私たちのまちの祭りや地域の活動

私たちの住むまちは、古くは西国街道の北側別ルートとして多くの人々と文化の行き交う場所でした。まちには今も、多くの神社や寺、史跡などが残っており、昔から伝わる祭りも行われています。

一方、酒米や菊の栽培が盛んでしたが、昭和初期から鈴蘭台の宅地開発を始め、谷上地区など鉄道沿線では宅地の造成が進み、山田川の自然は姿を変え、棚田などの里山景観が失われつつあります。

私たちの住むまちでは、これらの自然や伝統文化を守り・伝え・育てていく様々な活動が行われています。



山田町の里山風景(山田町東下付近)



## 2-3-1. 人々が集う山田の祭り



マップ 17 3

山田川地域では、六條八幡神社の神幸祭・流鏝馬神事、丹生神社の申祭などたくさんのお祭りが開かれます。

## 神幸祭 9月第3日曜日

山田郷の総鎮守社である六條八幡神社の神幸式です。この祭りは、明治時代から始まり、今に至っています。

六條八幡神社は山田郷の総鎮守社なので、神幸式の執行にあたっては、山田13ヶ村が4組に分かれて交替で当番を勤め、神輿を担いで当番の氏神から六條八幡神社まで練り歩き、その後、六條八幡神社の境内を練り回ります。



神幸祭の様子

## 流鏝馬神事 10月第2日曜日

流鏝馬とは、馬を走らせ馬上から矢で的を射るもので、古くは端午の節会に朝廷の儀式として行われ、約600年前のものを継承しています。六條八幡神社の流鏝馬は、神戸市の無形民俗文化財に登録されています。



流鏝馬の様子

(写真: 神戸市)

## シュウシ・オコナイ 2月5日

無動寺にある若王子神社で行われ、一年の安泰、豊作を祈り感謝する祭りです。福地（神戸市北区山田町福地）を、西所と東所の2地区に分け、祭りの当番は2つの地区が毎年交替で受け持ちます。

## シュウシ

シュウシは、広間で、神職と無動寺の住職を正面に、袴姿の長老や神主、座敷持の人々が座り、前にはお膳に盛ったごちそうが並べられます。そして、神主がお頭のあいさつをした後、昔からの酒肴の儀式が当番の給仕によって進められます。

## オコナイ

本堂の板敷にアユミ板が置かれ、数名の村人が檜の棒を持って座り、住職の読経と錫杖や太鼓の音を合図に、檜の棒を振り上げてアユミ板に打ち付けます。何度も打ち付けられた棒は先が割れてササラになっていきます。その後、神主から、紙札（牛王宝印）が配られ、お札をササラ棒に飾り、苗代と各家に祀り、健康・豊作などが祈られます。



さるまつり 申祭では、子どもによる相撲が奉納されるんだよ！

## 申祭 5月5日（子どもの日）

丹生神社に祀られている日吉神社の使いとされる猿にちなんでいると思われ、かつては旧暦4月の申の日に行われていました。

古くから奉納相撲が有名で、鎮守としている坂本、東下、西下だけでなく、山田郷内はもちろん遠く三木、志染、淡河、吉川辺りからも力自慢の田舎力士が集まったそうです。

今は地元小学校の生徒による子ども相撲が奉納されています。

申祭の日は、丹生宝庫の開放日でもあり、丹生宝庫に納められている貴重な資料を見ることが出来ます。



奉納相撲の様子

(写真：神戸市)



私たちのまちで行われているお祭りに参加してみよう！

## 2-3-2. 山田川での活動



私たちの身近な存在である山田川は、昔から、そこに暮らす人々のみならず、広く農業用水などに活用されてきました。また、山田川地域は神戸市にあって数少ない自然の残る場所としても重要な役割を担っています。

近年の宅地開発によって、特に山田川の上流部周辺は急速に発展してきています。一方で、市街化によって山田川の水が汚れてきました。自然を多く残す山田川地域の住民は山田川の自然を守るため、様々な活動に取り組んでいます。



## 「山田川を美しくする会」って、何をするの？

昭和40年代（1965年ごろ）、山田川上流部の大池、花山に大型団地が開発され、生活用水や塵芥処理場の汚染水が山田川に流れ込んできたことにより水質が著しく悪化しました。このことに危機感をもった地域住民により山田川地域の自治会を中心に昭和52年（1977年）11月「山田川を美しくする会」が結成されました。「山田川を美しくする会」は、自然環境の保全、公害のない住みよいまちを守ることを目的に、毎年3月の第1日曜日に地域住民（参加者約7,000人）によるクリーン作戦を実施し、現在までに34回を数え、すっかり地域に定着しています。

そのかいもあり今では、多くの魚やホタルが飛び交う川へともどりつつあります。（平成25年（2013年）3月時点）



山田川クリーン作戦（写真：神戸市）



川での活動の様子

(写真：北神急行電鉄)



啓発用のぼり

(写真：神戸市)



クリーン作戦に参加してみよう！

## 2-3-3. 様々なまちづくり活動



わたしたちのまちにはどんなまちづくり活動があるのかな？

### 山田民俗文化保存会

大正9年（1920年）、山田村議会の決議により、「山田村郷土誌」が刊行されました。その後の半世紀は山田村が大きく変化した時期でもあり、この変化を記録し後代に残すために山田郷土誌第二編纂委員会を立ち上げ、昭和54年（1979年）、山田村郷土誌復刻版と山田郷土誌第二編纂の発行に至りました。これを期に山田郷土誌編纂委員会は山田民俗文化保存会へと形を変え、昭和55年（1980年）以降、山田地域内に存在する貴重な文化財の発見と保存啓発をはかり、既出版物の著作権を所有し、更に次編纂の資料収集に努める組織活動を開始しました。

また、年に一度「丹生山田の里だより」を発行してまちの歴史などを紹介しています。

### NPO法人 山田の里自然学校

都市部に近い自然学校として、平成13年（2001年）に設立されました。幼稚園児から中学生を主な対象とした様々な自然体験活動を、年間通じて行っています。活動は、団体が管理・運営するキャンプ場「柏尾谷リバーパーク」を拠点に、田んぼや畑、海など、様々なフィールドで行っています。

また、子ども自然体験活動だけでなく、環境保護活動、研究活動、行政の委託事業、インターンシップ・学生の実習の受け入れなども行っています。



「丹生山田の里だより」



山田の里自然学校での活動の様子



「丹生山田の里だより」を読んでみよう！

### 六甲山自然案内人の会

六甲山とそれに連なる山々の周辺で定期的に自然観察会を実施し、土・日・祝日には山の案内人として、ボランティアガイドを行っています。また、自然を守るために環境保全整備などの活動も行っています。

<http://rokkosan.gotohp.jp/>



六甲山自然案内人の会のHP



案内人活動の様子(山田町)

### 山田の里グリーンクラブ

神戸市北区山田町を中心に、林内の下草刈り、間伐、枝打ちを行い、棚田の復旧と再生として、古代米、蕎麦、野菜の栽培なども行っています。

また、昔からある里道の整備と保全や椎茸栽培、カブトムシの飼育、ハーブなどの花づくりなども行っています。

さらに、地元中学校2校の「トライやる・ウィーク」での生徒の受入れや、地域子ども達を対象とした、体験型環境学習を開いたり、神戸県民局などのイベントへの参加なども行っています。



活動の様子



みんなで、まちづくりの活動に参加してみよう！